





## こだわり2 バッハの時代の響きを再現 銅の古楽器

失われたバッハの音色が現代に蘇った！



円形トランペット

時代とともに消えた古楽器「コロノ・タ・カッチャ」は、トランペットで楽譜通りに吹いても出せない音「自然倍音」を奏でることが出来る。簡単に言えば「ド」の音を出したとき、それ以外の音の波長も同時に響き、今の楽器の「ド」とは異なる音に聞こえる現象のことだ。一七三三年にバッハが作曲したカンタータに多用されているが、多くの奏者は別の楽器で代用し、現存しない

コロノに似た音を表現してきた。  
一九九七年、トランペット奏者・島田俊雄氏はバッハ・コレギウム・日本の音楽監督から「バッハのカンタータ四三番を演奏したい」と相談を受ける。「僕はなんとしても自然倍音でバッハの時代により近い音色で演奏したいと思いました。そこでこの曲に使われていたであろうコロノを自分で製作することにしたのです」

これまでトランペット開発に数多く関わってきた島田氏は経験を生かして未知の古楽器製作へ、銅合金の加工に挑むことになる。「設計図がなく、楽譜から想像するしかありませんでした。狙った音を出せる形や素材を試行錯誤するうちに、銅の配合を高めることで柔らかな音が出せるとわかったのです」

銅合金の曲げ加工や接合に悪戦苦闘し古楽器製作に打ち込んだ結果、コロノは現代に蘇り、その演奏は高い評価を受けた。それでも島田氏は「音の種類は網羅できませんでした。音色はさらに研究の余地があります」と、バッハの世界への回帰に目を輝かせた。



製作に打ち込む島田氏



島田氏が製作したスライド式トランペット

## こだわり3 大人気の鉄道模型は真鍮！

マニア垂涎の精緻な車両

大人から子どもまで、鉄道ファンの夢を乗せて走る鉄道模型。手軽に楽しめ日本では一番人気のNゲージ\*や、手頃な大きさと観賞用としても馴染みのあるH0ゲージ\*の高級モデルに真鍮が使われているのをご存知だろうか。

これまでに「○○○種類もの鉄道模型を生み出してきた老舗東京銀座「天賞堂」を訪ねた。

天賞堂では戦後、アメリカへの輸出用にと未塗装の真鍮模型を売り出していた。海外ではユーザー好みに塗装されたが、完成品が好まれる国内でも一部は塗装されず観賞用として好評を博したという。真鍮特有の深みのある輝きや、重厚感のある質感に価値を見出したのだ。

真鍮を使い始めたのは、加工のしやすさが理由だった。より本物に近い形状を細部まで表現することができる。売り急がず時間をかけ、芸術品として認められるまで技術力を高めた。

鉄道模型製作は、車種を決定する会議から始まる。そして設計図作り、パーツ製作、塗装と工程を踏み、長いと、完成までに二年も要する。

「お金や時間がかかっても、完成度の高いものをお届けしたい。その思いを実現するのが真鍮なのです。鉄道車両の複雑な形状と質感を表現するにはやはり真鍮が一番ではないでしょうか。真鍮モデルの魅力は多くの方に知ってもらいたいためにも、妥協しない模型作りに挑戦し続けたいです」と(株)天賞堂顧問 遠藤 憲司氏は結ばれた。



(株)天賞堂  
遠藤 憲司氏



塗装モデル

無塗装モデル(非売品)

\*H0ゲージ…実物比1/87 Nゲージ…実物比1/150

天賞堂ビルの角で  
そっと向こうをのぞく  
「いたずらキュービッド」